

サツキ 晴れ

Satsuki
bare

CONTENTS

- 01 新任医師紹介／村瀬吉郎医師
- 02 新任医師紹介／井岡大樹医師
- 03 コロナ禍の健康管理
- 04 TOPICS
- 05 みよし市民病院を支えるチーム活動
- 06 みよし市民病院 職員募集中!



院長
メッセージ

当院では昨年、内科に村瀬吉郎医師(副院長)、眼科に井岡大樹医師(医長)を迎え、診療体制がさらにパワーアップしました。とくに眼科では手術体制が整い、白内障などに対して、目にやさしい手術を積極的に行っています。今号は、そんな眼科の医療体制について特集しました。どうぞ一読ください。



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

「目」を守ることは
全身の健康を守ること。

眼科特集

ご自由にお持ちください

みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

INFORMATION



みよし市民病院では、私たちと一緒に
地域医療に貢献してくれる仲間を募集しています。
まずはお問い合わせください。

〈看護師修学資金〉制度もあります

みよし市民病院の看護師をめざす学生の皆さんに、修学資金を貸与します。勤務年数に応じて、返還が免除されますので、ぜひお申し込みください。

みよし市民病院 職員募集中!



募集職種

看護師	資格	看護師の資格を有する人
	年齢	昭和37年4月2日以降に生まれた人
看護助手	資格	介護福祉士の資格を有する人、または介護職員初任者研修修了者の資格を有する人
	年齢	昭和37年4月2日以降に生まれた人

お問い合わせ

みよし市民病院 管理課
TEL 0561-33-3300

詳しくはこちら



みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

基本方針

- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
- 2 思いやりと、心のふれあいを大切にした医療を行います。
- 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
- 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
- 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



病院広報誌 特設サイト

サツキ
晴れ

地域の皆さんや連携機関の皆さんと「みよし市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。 [こちらから](#)



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE〈公式〉アカウントを開きました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



みよし市民病院

Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地

TEL 0561-33-3300

<http://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ
晴れ
Satsuki
bare

発行責任者／院長 伊藤 治
発行／みよし市民病院 広報グループ
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行日／2021年4月

SPECIAL REPORT

「目」を守ることは 全身の健康を守ること。

眼科特集

加齢に伴うさまざまな目の疾患を適切に治療し
高齢者のイキイキとした暮らしを支え続ける。



CHAPTER 01 白内障などに対する 手術治療に力を注ぐ。

「先生、すごくよく見えます」。手術の翌日の診察で、Sさん(70代女性)は声を弾ませて報告した。Sさんの病気は、白内障。水晶体というレンズに相当する部分が年齢とともに白く濁り、視界がぼやけて霞むようになり、視力も0.3くらいまで低下。新聞を読むにも、薬を飲むにも時間がかかり、不便な生活を送っていた。思い切った手術を受けて視力と視野を改善させたSさんは、以前のような快活な生活を取り戻すことができたのである。

この手術を行ったみよし市民病院眼科医長の井岡大樹(いのか だいき)は、次のように話す。「社会の高齢化に伴い、白内障を患う高齢の患者さんが増えていますね。ごく早期であれば、目薬を出す先生も多いと思います。しかし、進行すると、根本的な治療法は手術になります」。白内障の手術は通常、局所麻酔で行われる。薬を点眼して目の表面に麻酔をかけ、白目のところに小さな創口を作り、超音波の器具を挿入。最小限の超音波の力で水晶体の濁った部分を碎いて吸引し、そこに人工のレンズを挿入する。手術時間は20分程度と非常に短く、体への負担は比較的少ない。日帰り手術を行う施設もあるが、同院では安全性を最優先し、最低でも1泊2日の入院で行っている。「術後も合併症予防や網膜のむくみなど

どに注意しないといけません。当院では、退院後も定期的に通院していただき、経過を慎重に見守っていきます」と、井岡は話す。こうした手術体制は、令和2年10月に井岡の就任をきっかけに強化された。白内障手術のほか、眼球の内部を満たしているゼリー状の硝子体(しょうすたい)の疾患に対する手術も積極的に進めている。これは、眼球に小さな穴を数カ所あけて器具を挿入し、出血などで混濁した硝子体に治療を施すもの。極めて精緻な技術が求められる高度な手術だ。「患者さんの安全性を担保するために、手術をするときは院外から経験豊富な眼科医を招いて行っています。もちろん、手術器具・装置はいずれも最新のものを取り揃えていますから、安心して任せていただきたいと思います」と、井岡は胸を張る。

COLUMN

●糖尿病が網膜症や黄斑症を起こすことはよく知られているが、目の病気と全身の病気の関連はそれだけではない。高血圧や脂質異常症といった生活習慣病、さらに脳梗塞や脳腫瘍なども同様に目の障害を誘発する。

●高齢になれば、定期的に「眼底検査(目の奥の血管や神経の状態を詳しく調べる検査)」を受けることが大切。眼科と身近につき合うことで、目の疾患だけでなく、命に関わる病気を予防することができる。

CHAPTER 02 みよし市民の目の 健康を守っていく。

同院の眼科では、ものもらいや結膜炎をはじめとした一般的な眼科疾患に幅広く対応。糖尿病網膜症や加齢黄斑変性などの網膜疾患、緑内障など、それぞれの疾患に適した治療を提供している。ただ、昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、受診を控えている患者が増えていることも事実だ。「明らかに患者さんが減っていますから、それぞれの病気が悪化しないか心配ですね。たとえば、緑内障は目薬で進行を抑える治療が一般的ですが、目薬が切れたのにそのままにしていると、視野がさらに狭くなってしまいうケースもあります」(井岡)。

眼科疾患の多くは命に関わるものではない。しかし、視力が落ちると、生活の質の低下も確実に進む。「私たちが受け取る情報のうち、およそ8割は視覚から得られるといわれています。目が見えにくくなると、

仕事や家事など日常生活に支障が出ますし、転びやすくなったりします。また、在宅で療養している高齢者のなかには、テレビだけが楽しみという方もいらっしゃいます。そういう方から視力を奪うことは、生活の質を著しく損なうことになります」と井岡は言い、さらに続けた。「もう一つの重要なポイントは、目の疾患が全身の疾患に繋がっていることです。たとえば、糖尿病から網膜症になったり、膠原病からドライアイになったりします。目の診察を機に、重大な病気が見つかることもよくあります。だからこそ、視力などに違和感を覚えたら、先延ばしにすることなく、私たち専門医に相談していただきたいと思っています」。

なるほど、目を守ることは生活の質を守ることであり、ひいては全身の健康を守ることに繋がる。高齢になっても、イキイキと健やかに、安全に暮らしていく上で、眼科医療の果たす役割は非常に大きい。井岡はその責任を十分に自覚し、みよし市民の目と全身の健康を守っていくとしている。

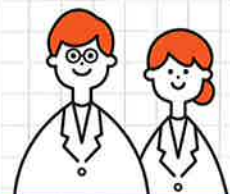
BACK STAGE

超高齢社会における 眼科医療の果たす役割。

●高齢社会の進展に伴い、白内障や緑内障、ドライアイなどを患う人は年々増えている。みよし市民病院の眼科は、こうした疾患に対して適切な治療を行い、高齢者の視力を守り、生活の質を守るべく取り組んでいる。

●さらに、眼科が果たす役割はそれだけではない。目の検査・診断を通じ、全身の疾患の兆しを早期にとらえる役割も担う。同院の眼科は、健康長寿を支える上で、市民にとってなくてはならない存在といえるだろう。





新任医師をご紹介します!

2020年10月に就任した村瀬先生に
インタビューしました。

むらせ きちろう
副院長(内科) **村瀬 吉郎**

患者さんのお話を一生懸命聞いて、
より良い治療法や療養生活を考えていきます。



—先生の専門領域について教えてください。

ももとの専門は循環器内科で、大学卒業後は心臓カテーテル治療を数多く経験させていただきました。その後、ICU(集中治療室)、救急科に勤務し、1分1秒を争う救急患者さんや重症患者さんの全身管理の分野で研鑽を積んできました。いっぽう、高山市や中津川市といった岐阜県の山間部で、主に地域の高齢者の方々を対象とし、内科医として10年間ほど勤務しました。そうした豊富な経験をベースに、この病院では総合内科医として、さまざまな疾



患に幅広く対応しています。

—みよし市民病院の患者さんについてどんな印象ですか。

みよし市は豊田市に近いので、会社勤務の方が多くかと思っていました。でも、実際は農家の方、それも高齢の方が多いんですね。果樹園や水田を管理している地元の方々とお話しするのはとても楽しいですね。症状やお困りごとはもちろん、ご家族や生活のことも一生懸命お聞きします。そして、一人ひとりの生活背景まで理解して、より良い治療法を考えたり、院内外のスタッフと協力して、退院後の療養生活へ繋ぐよう努めています。

—これからの抱負をお聞かせください。

特別な疾患ではなく、普通の疾患を普通に治し、普通の生活に戻っていただくことが、医師にとって大切なことだ



と考えています。その治療のプロセスを丁寧に見守っていきたいですね。また、この地域はラテン系民族の患者さんが結構多くいらっしゃるの、新たにポルトガル語とスペイン語の勉強を始めました。外国籍の方ともしっかり意思疎通して、より良い医療を提供していきたいと思っています。



Profile

略歴

1990年名古屋大学医学部卒業後、小牧市民病院で4年間循環器内科を中心に研修。名古屋大学大学院医学研究科にて学位取得。その後、内科医として約10年間地域医療に従事。その後、大学病院の救急部・集中治療部で約10年急性期医療に携わる。2020年10月より現職。

資格・所属学会

日本内科学会 総合内科専門医・認定医、
日本循環器学会 専門医、日本救急医学会
専門医、日本集中治療医学会 専門医

2020年8月に就任した井岡先生に
インタビューしました。

いのおか だい き
眼科医長 **井岡 大樹**

白内障や硝子体の疾患などに対しては、
目にやさしい手術を積極的に行っています。



—眼科の医師になられたのはどうしてですか。

学生の頃は、漠然と内科へ進もうと考えていました。でも、いろんな診療科を研修するなかで眼科の専門性の高さを知り、興味を持ったんです。目のレーザー治療など、眼科医にしかできないことがありますし、手を動かす治療が多いことも自分に合っていると思いました。

—みよし市民病院の患者さんについてどんな印象ですか。

高齢の患者さんが多いように感じています。70代、80代でも皆さん、元気に暮らしていらっしゃるんですが、目の加齢変化は確実に進んでいます。加齢に伴う白内障、緑内障、あるいはドライアイなどで悩んでいる方が多いですね。眼科では、それぞれの疾患に応じて、目薬やレーザー治療、手術などを提案しています。

—どんな治療に力を入れていますか。

たとえば、高齢者の方に多い白内障や硝子体(しょうたい)の疾患を根本的に治す一つとして、手術療法があります。そこで必要な方には、最新医療機器を用いて、目にやさしい手術を積極的に行っています。手術では、外部から経験豊富な医師を招いて安全性を担保しています。また、手術したら終わりではなく、その後も定期的に通っていただき、術後の経過をしっかりと確認するよう努めています。手術によって視力が回復し、「よく見えるようになった」と言っ



ていただけるのが、医師として一番大きな喜びです。

—地域の皆さんにメッセージをお願いします。

コロナ禍で、眼科の受診を控えている方が多いと思いますが、特に緑内障などは目薬が切れると、病気が進行するリスクがあります。できれば、必要な受診は続けてほしいですね。また、自分自身で、目の見え方を片目ずつ確認するなど、ご家庭でできるセルフチェックも意識して心がけていただきたいと思います。

Profile

略歴

2014年、名古屋大学医学部卒業。名鉄病院で初期研修を受けた後、名古屋大学医学部附属病院へ。2020年名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了。その後、公立陶生病院で眼科医として経験を積み、2020年8月より現職。

資格・所属学会

日本眼科学会 会員
日本眼科学会 眼科専門医

総合内科ドクターが伝えたい

「コロナ禍の健康管理」



村瀬吉郎 副院長

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、
受診を控える方が増えています。

こんなときでも、「これだけは心がけてほしい」というポイントを、
総合内科専門医の村瀬吉郎副院長からお話します。



01

健康診断は
機会を逃さずに。

毎年、皆さんのところには、自治体や健康保険組合から定期健診や各種検診のお知らせが届くと思います。そうした健診・検診については、機会を逃さず、受けていただきたいと思います。新型コロナウイルスへの感染を懸念される方もいらっしゃると思いますが、病院では安全に検査を受けていただけるよう万全の配慮をしています。ぜひ、安心して来院してください。

02

持病の治療を
中断しないで。

生活習慣病や基礎疾患を持っている方は、コロナ禍でも通院を中断しないしてほしいと思います。定期的に検査をすることで、病気の悪化をしっかりと食い止めることができます。たとえば、薬が必要な場合でも、かかりつけ医が「〇カ月後に来てください」と言うのであれば、きちんと守ることが大切です。新たな病気を早期発見するためにも、受診の継続をお願いします。

03

散歩などで
運動量を増やして。

みよし市には、市民のためのスポーツ教室がいろいろありますが、今はコロナ禍で中止されています。そのため以前に比べ運動量がガタッと減り、体調を崩している方もいらっしゃると思います。必要な運動量を確保するため、できる範囲で散歩などの運動を心がけてほしいですね。私も毎日万歩計をつけて動いていますし、休日は保田ヶ池や三好池の周りをジョギングしています。

看護部
から
メッセージ

総看護師長
高橋和恵



気になる症状があればお気軽にお電話ください。

コロナ禍で病院に足を向けにくい方もいらっしゃると思います。当院では院内感染防止対策を徹底していますので、何か気になる症状があれば、事前に電話連絡の上、ためらわずに受診していただきたいと思います。

院内の感染防止対策で強化しているのは、来院された方への問診です。最近、大人数で

食事をしたことはあるか、人混みの場所に行ったことはあるか、など、三密回避の有無を確認してから、外来を受診していただいています。

窮屈な自粛生活はもうしばらく続きそうですが、ウォーキングなどの運動やバランスの良い食事を心がけ、毎日の健康管理に努めていただきたいと思います。



こころの健康維持③ テレビ電話や音声通話など、リアルタイムに人とコミュニケーションを取る時間を。

TOPICS

安全に食べられるように昼食前にみんなで「お口の体操」を。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、当院の3階・3病棟(療養病棟)では1年以上前から、患者さん向けのレクリエーションを中止しています。ただ、それによって、入院中の活動量の低下が懸念されていました。

コロナ禍でも何かできないかと、令和2年10月から始めたのが、昼食前の「お口の体操」です。平日のお昼前、食堂に集まってきた患者さんに対し、言語聴覚士がイラストを描いたボードを掲げながら、口や舌を動かす運動を指導。感染予防にしっかり配慮しつつ、患者さんはできるだけ大きく口を開けて体操しています。「以前は食事の直前まで寝ている方も多く、食も細くなりがちでした。でも、声を出したり、口を動かすことによって、唾液も出て、口内の食べる準備が整います。誤嚥を防ぎ、安全に食べていただく上でとても有効だと実感しています」(言語聴覚士)。この取り組みを始めて、病棟看護師からも「患者さんの声が出るようになった」という声が上がっています。ゆくゆくは、お口の体操をさらに充実させ、レクリエーションへと発展させていきたい考えです。



パネルを使って
わかりやすく
お話しています。

皆さんと一緒に
「ウ～」のお口!



みよし市民病院を支える チーム活動

vol.4

接遇・相談・虐待委員会 PART 1 接遇

コロナ禍でも良好なコミュニケーションを。
全職員で接遇マナー向上に取り組んでいます。

当院では令和2年4月、それまで別々だった接遇委員会と相談・虐待委員会が一つになり、合同で活動を開始しました。その幅広い活動のなかから、今回は、接遇に関する取り組みについてご紹介します。

接遇向上については、毎月1回テーマを定めて取り組んでいます。たとえば最近では、マスク越しでも患者さんとコミュニケーションが取れるように、「相手の目をしっかり見て話しましょう」「挨拶する時は口だけでなく、頭を下げましょう」などのテーマを設定。1カ月後、評価シートを用いて、部署ごとにテ



マを達成できたかどうか振り返っています。

その他、コロナ禍でなかなか開催できない院内研修の代わりに、DVDによる研修も行っています。最近では、クレーム対応策をまとめたDVDを委員会メンバーが制作。各部署でDVDを視聴し、接遇のスキルアップに努めています。さらに年に1回、全職員が自分の身だしなみを確認し、チェックシートに記入。その内容を部署ごとに集計し、結果を発表する取り組みも続けており、着実に成果を上げています。



こころの健康維持④ 起床と就寝の時間を決め、一貫してその睡眠リズムを保つようにしましょう。